

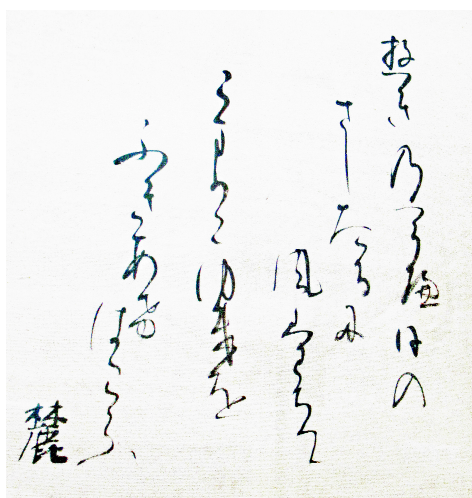
町政施行110周年・合併70周年記念池田町元気なまちづくり補助金事業

「岡 麓遺墨展」・「岡 麓を偲ぶ講演会」無事 終わる！！

今回の遺墨展・講演会は町政施行110周年・合併70周年記念池田町元気なまちづくり補助金事業の一環として行い、有志で「岡麓を偲ぶ会」を立ち上げて行いました。私は、その代表を務めさせていただきました。「遺墨展」・「講演会」にご協力いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。



《岡 麓遺墨展鑑賞風景》



《岡 麓が生前に書き遺した書(遺墨)の短歌》

(読み)

雪のうえ日の
さしたるに
風にちて
細かに雪を
ふきあげはらう

(意味)

雪のうえに日が
差しているのに
風がまき起こつて
細かに雪を
吹きあげて
散らしているよ

1. 岡 麓と池田町

アララギ歌人の重鎮であり、書の巨匠でもあった岡 麓^{おか ふもと}は昭和20年(1945)5月、戦火を逃れて当時の会染村内鎌に疎開しました。当地で生涯を終えるまでの6年間病苦・生活苦など数多くの困難や不幸に見舞われながらも短歌の道を究めるとともに、地域の人々に短歌や書の手ほどきをするなど、この地の文化の興隆に尽くしました。

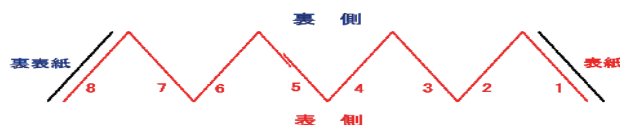
今回の遺墨展・講演会は岡 麓の池田町での実際の活動(池田で創った短歌や書の指導など)を広く知っていただくために企画しました。

2. 岡 遺墨展

遺墨展は町内外の個人18名・2団体から合わせて40点の貴重な資料をお借りすることができました。11月4日～6日に池田町交流センターで開催し、延べ125名の方にご来場いただきました。ご出展いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

池田町の風景や日常生活の瞬時を詠んだ麓の歌を始めて知ることができ、その感性や表現力などに感動しました。また、各家庭で麓の歌が大切に保管されていることにも感銘しました。また、麓が書いた「いろは帖※」を使い、地域の方に書道の手ほどきをしたことも知り、麓の丁寧さ・誠実さも伝わってきて来ました。

※「いろは帖」とは：習字の手本として使われる書道の手本書。麓の「いろは帖」では、持ち運びに便の良い下図のような折帖形式(折りたたみ形式)となっており、3種類の異なる書体の「いろは」を学べるようになっています。



3. 岡 麓を偲ぶ講演会

講演会は11月8日の午後に市民タイムスクラムニストの山本勝夫氏を講師にお迎えし、「岡 麓先生をめぐって」と題してご講演いただき、約50名の方にご聴講いただきました。

めしうど

山本氏は、「岡先生が宮内庁歌会始めの召人(天皇に招れて歌を詠む人)になったにもかかわらず、病気で歌会に行けなかったことは、さぞ残念だったろう」と語りました。また、「池田町が岡 麓終焉の家を保存・管理されていることは立派なことだ」と述べました。

《岡 麓を偲ぶ講演会》

講師：山本勝夫氏

山本氏は、94歳の高齢ながら、京都冷泉家(れいぜいけ)歌会始めの披露(ひこう、歌を詠みあげる独特な節まわし)を、県内で始めて披露してくれました。



滝沢地区の方々には書教える時に使った「岡麓先生真跡いろは帖」

